

新年度予算などを可決し3月定例市議会が閉会しました

3月定例市議会は23日、本会議を開き新年度予算や請願3件の委員長報告、新型コロナウイルス対策の一般会計補正予算、固定資産評価審査委員の同意などを採決し、市長から中心市宣言がおこなわれ閉会しました。

新年度一般会計予算は、221億1,426万円ですが、テラス沼田1階広場の寒さ対策など改善すべき場所の計画が示されないままで、中央公民館の廃止についての説明や新たな活動の場所提供、これからの文化活動を充実させる方針なども不十分なままです。

県内他市町村でおこなわれている保育料や給食費の無料化などを沼田市でもおこない、市民の暮らしを支える予算とすることなどを求め日本共産党市議団は新年度の一般会計予算と特別会計6件に反対しました。

担い手の育成など市民協働による地域づくりを

大東議員は、地域の課題解決にむけ、担い手の育成や地域への支援など市民協働により、住みつづけられる地域づくりを一般質問で求めました。

市長は、「これまでのまちづくり活動を維持していくことが、難しい状況となっております。地域活力の低下などが課題と認識している」と答え、「市民協働によるまちづくり補助金制度により、担い手として期待される団体等に支援し、活動支援の強化を図りながら、担い手を育成したい」と答えました。

大東議員は、市と地域で課題を把握し、課題解決に取り組むことが大事だと強調しました。



核兵器禁止条約の批准を求める請願が趣旨採択

12月定例市議会から継続審査となっていた「核兵器の禁止条約の署名・批准を求める意見書の提出を求める請願」は、17日に開かれた総務文教常任委員会で採択1人、趣旨採択5人で、趣旨採択となりました。

23日の本会議でも趣旨採択となり、政府への意見書は提出されませんでした。



利根郡内町村と連携をめざし沼田市が中心市を宣言

近隣の市町村が連携し、公共施設の共同利用や機能を補完し合うことなどにより生活基盤を強化し、定住人口の増加をめざす国の「定住自立圏構想」で、沼田市は23日の3月定例市議会最終日に「定住自立圏構想」の中心となる「中心市」宣言をおこないました。

新年度に片品村、川場村、昭和村、みなかみ町と連携協定を結び、具体的な取り組みなどを検討し、「ビジョン」をまとめることとなります。

中心市には国から特別交付税が交付され、福祉や公共交通のネットワーク化なども検討し、2021年度から事業を具体化させる予定です。



2020年3月29日

NO. 646

日本共産党 大東のぶゆき議員活動地域後援会ニュース

やまびこ

発行所 沼田市下久屋町983 Tel.23-1519 部内資料



事態の展開に合わせ、財務相は事実関係を再調査することが必要です。まじめに働いてきた職員に改ざんを強いた主な幹部は、軽い処分です。れも出世しているなど、これほど理不尽なことはありません。

「森友学園」問題を担当して自殺した財務省近畿財務局の職員の妻が、国と当時の理財局長だった佐川氏に損害賠償を求める訴訟を起こし、弁護団は、自殺した職員が「すべて佐川局長の指示」などとした手記と遺書を公表しました。自殺した職員の手記や遺書には、安倍首相の「私や妻の昭恵が関係していれば、首相も国会議員もやめる」との国会答弁の後、抵抗したにもかかわらず、佐川局長ら上司の指示で、公文書を改ざんしたり、会計検査院に虚偽の報告をさせられたりしたことなどが生々しく書き残されています。

こんにはは 大東のぶゆき です

続ぶらり散歩 めまた道 利根町あれこれ 特別編 その五十六

根利の赤宮跡

県道大間々線から根利の集落に入り、正覚寺の前を開墾にむかう途中の上組をすぎた道路わきに鳥居の柱が一本立っている場所があります。



この場所には、「赤宮」とよばれた神社があり、今ではどんな神様が祀られていたかも不明ですが、武尊様ではなかったかという人がいました。

鳥居の柱には、元文2年(1737)と彫られており、この神社が江戸時代中期にはあったと思われます。

この赤宮近くではヒカリダマを見たという話しがたくさん残されており、10センチくらいの大きさで、人と同じくらいの高さをお墓にむかって飛んで行ったそうです。

赤沢

老神温泉から穴原にむかう林道の途中に二つの隧道があり、その隧道にはさまれて流れる沢が赤沢です。



赤沢は、日光二荒山の神様と赤城の神様が戦い、傷を負った赤城の神様がこの沢で傷を洗い、流れた血で沢は赤く染まり、それから赤沢とよばれるようになったと言われています。